

2021年3月期

第1四半期決算説明会資料



2020年8月5日

ヤマハ株式会社

決算発表のポイント

決算概要

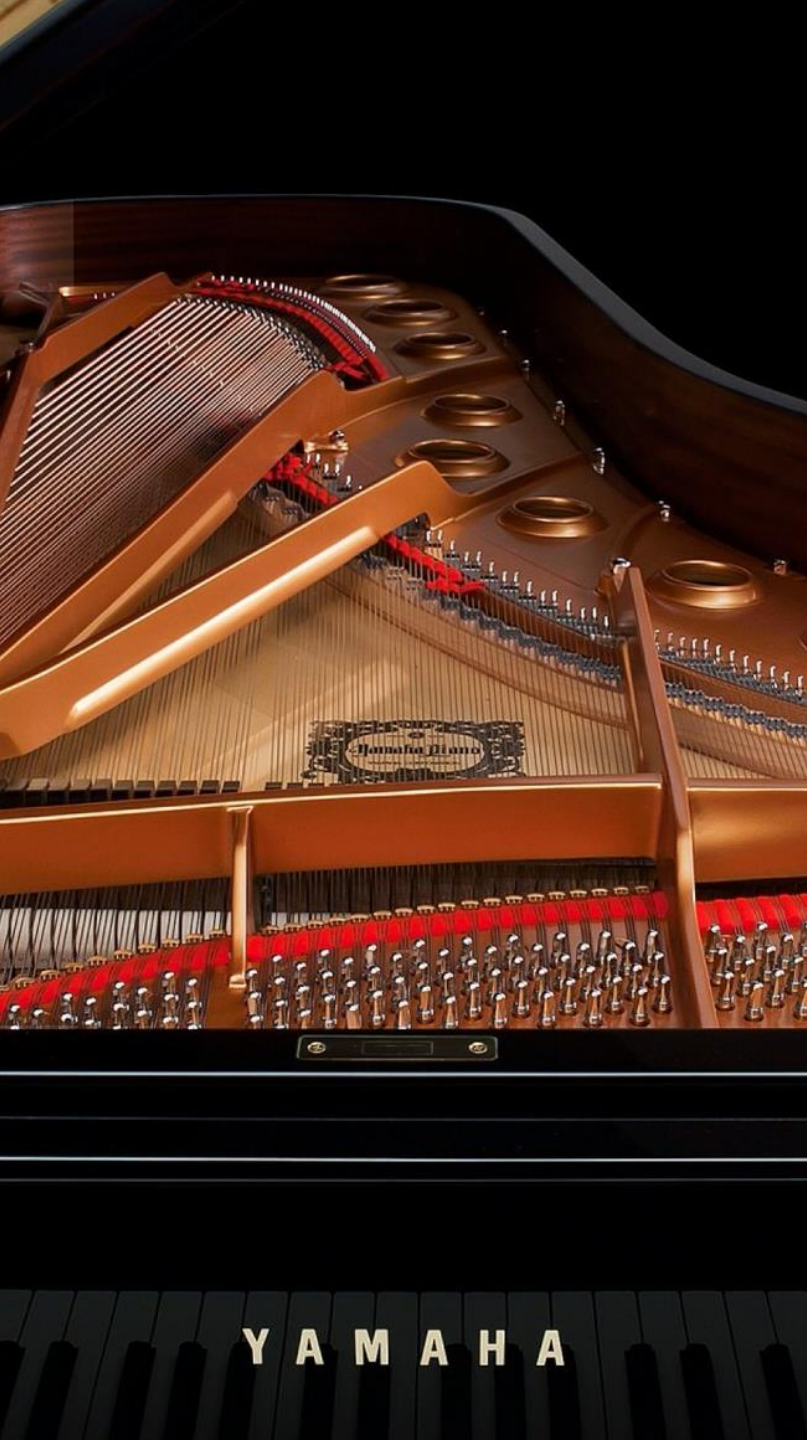
【21/3月期 1Q実績】

- ・ コロナ禍による販売減、工場停止により、対前年大幅に減収減益
- ・ 当期利益は、操業停止損▲25億円計上により赤字決算

業績予想

【21/3月期 通期予想】

- ・ 市況回復はQ3以降を見込む。生産供給不足Q3まで継続、通期減収予想
- ・ 事業利益は、経費節減図るも上半期の減収減産影響カバーできず減益予想
- ・ 安定配当の方針より、年間配当は前年同額66円を予定(配当性向73%)



1. 決算概要

業績概要

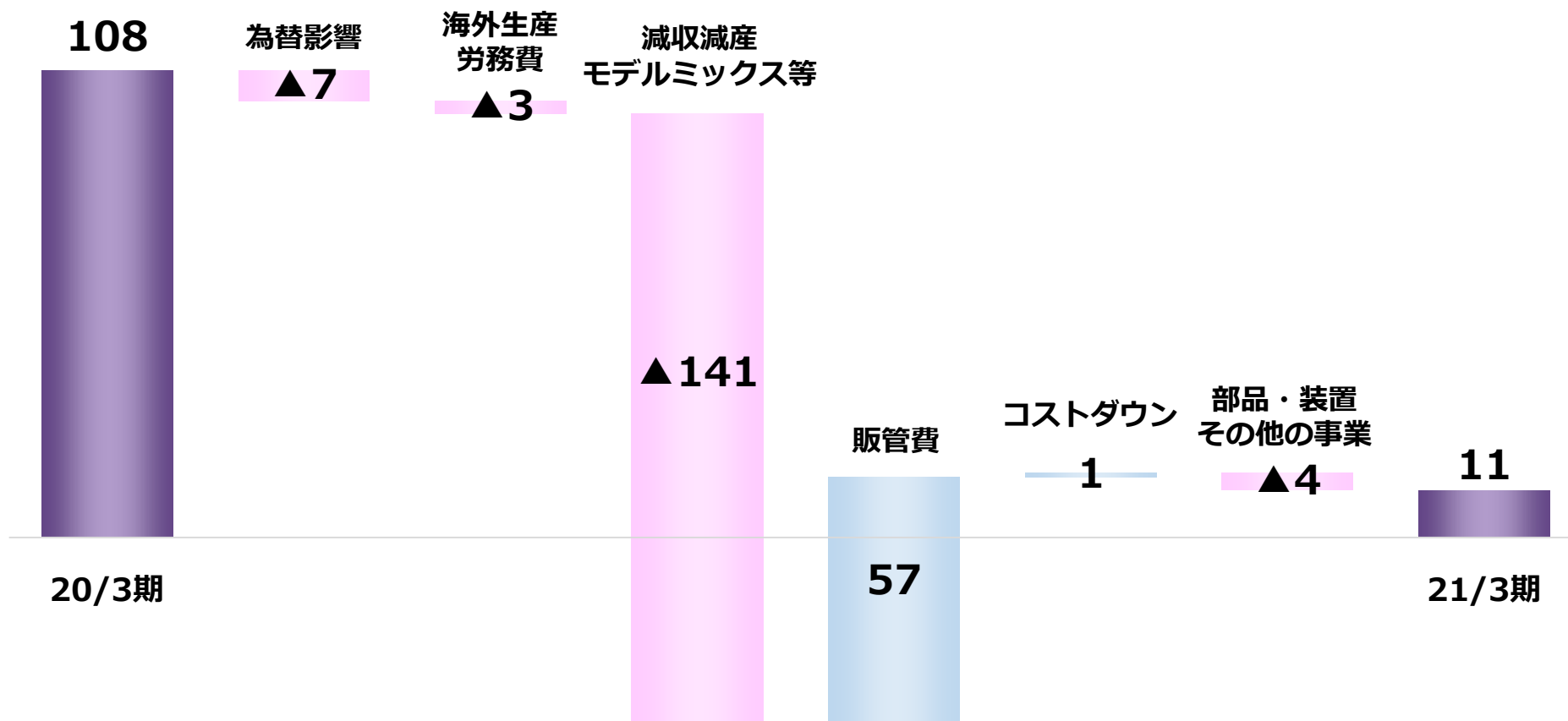
	20/3		21/3		前期比	
売上収益	995		718		▲277	▲27.9% ^{*2}
事業利益 (事業利益率)	108 (10.8%)		11 (1.6%)		▲97	▲89.5%
当期利益 ^{*1}	73		▲18		▲91	-
*2 ▲25.5% (為替影響除く)						
為替レート (円)						
売上収益 (期中平均)	US\$	110	108			
	EUR	123	119			
利益 (決済レート)	US\$	111	108			
	EUR	126	121			

*1 親会社の所有者に帰属する当期利益

事業利益増減要因

前期との比較

(億円)



事業別業績

(億円)

		20/3	21/3	前期比	為替影響
楽器事業	売上収益	675	466	▲209	▲18
	事業利益	98	25	▲73	▲6
	事業利益率	14.6%	5.4%	▲9.2P	
音響機器事業	売上収益	248	195	▲53	▲6
	事業利益	9	▲11	▲20	▲1
	事業利益率	3.5%	▲5.5%	▲9.0P	
部品・装置 その他の事業	売上収益	72	56	▲16	▲0
	事業利益	1	▲3	▲4	0
	事業利益率	0.9%	▲5.3%	▲6.2P	

通期業績予想

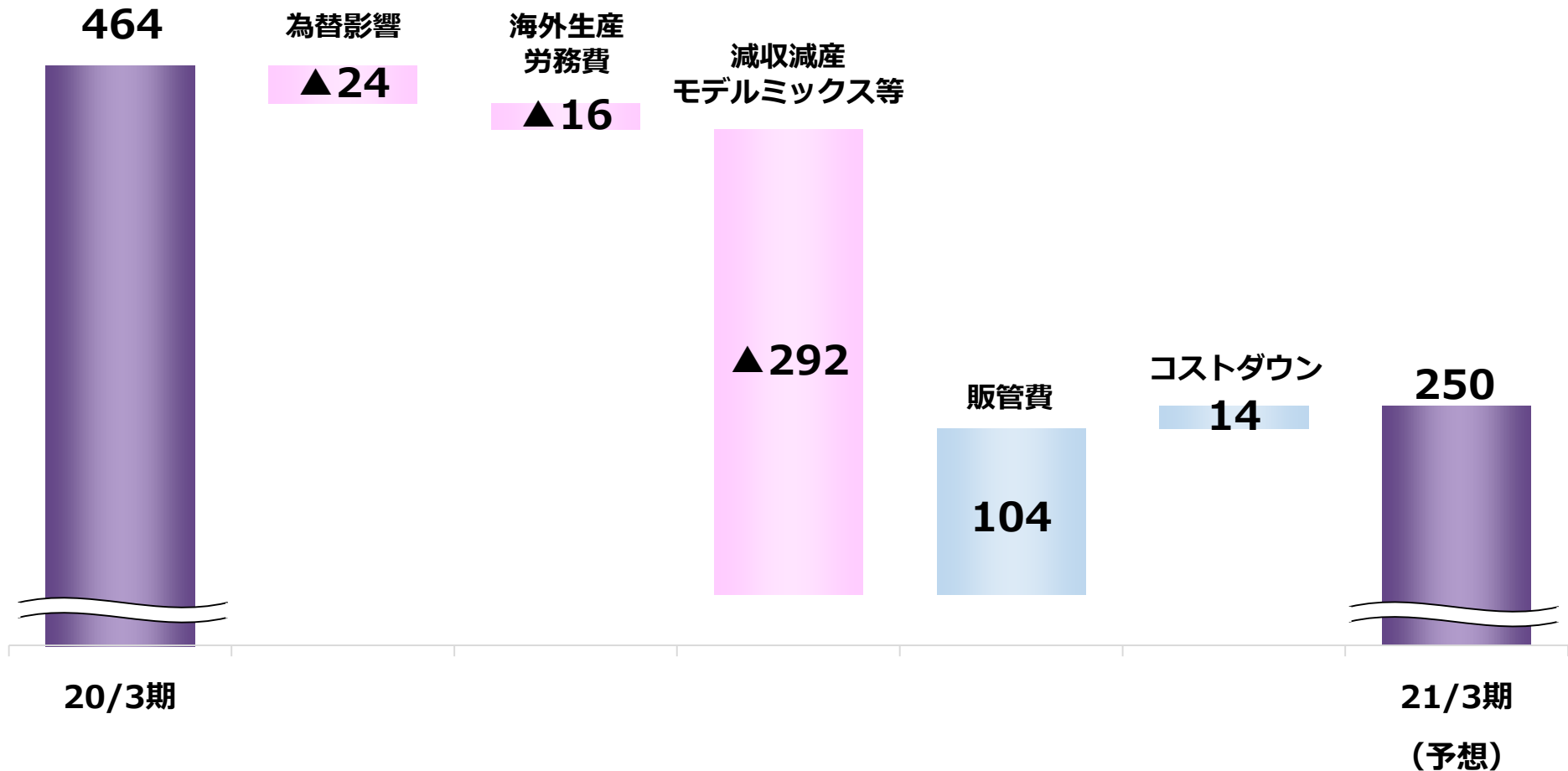
	20/3		21/3		前期比	
売上収益	4,142		3,550		▲592	▲14.3% ^{*2}
事業利益 (事業利益率)	464 (11.2%)		250 (7.0%)		▲214	▲46.1%
当期利益 ^{*1}	346		160		▲186	▲53.8%
*2 ▲12.9% (為替影響除く)						
為替レート (円)						
売上収益 (期中平均)	US\$	109	108			
	EUR	121	120			
利益 (決済レート)	US\$	109	108			
	EUR	122	120			

*1 親会社の所有者に帰属する当期利益

事業利益増減要因

前期との比較

(億円)



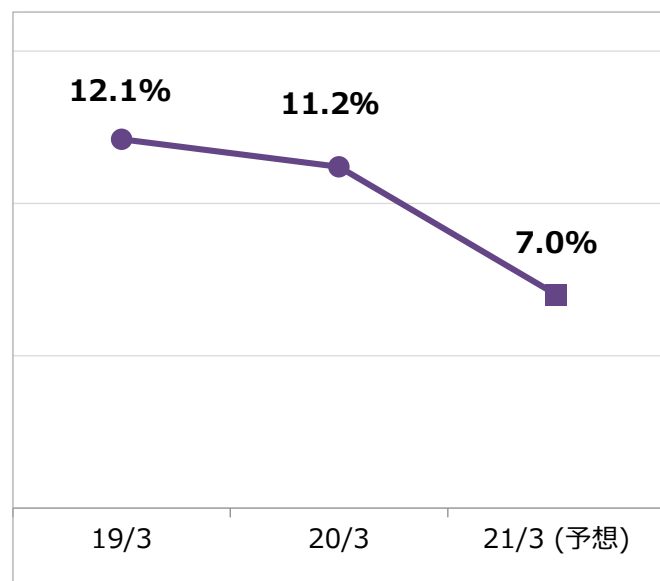
事業別通期業績予想

(億円)

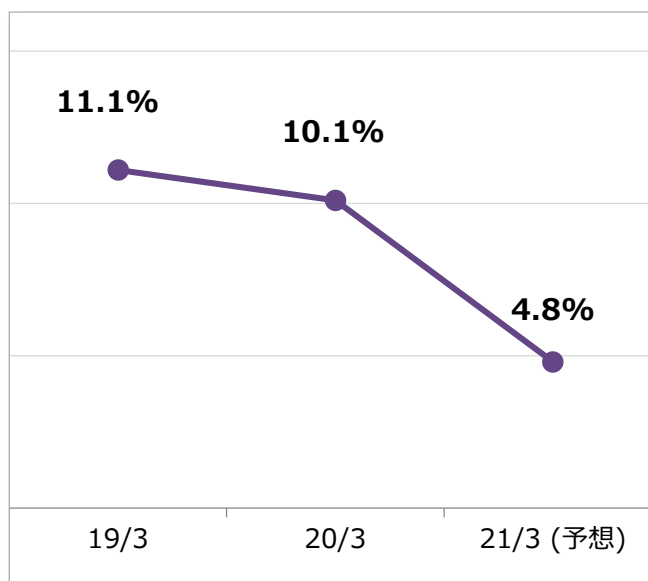
		20/3	21/3	前期比	為替影響
楽器事業	売上収益	2,694	2,280	▲414	▲44
	事業利益	378	200	▲178	▲19
	事業利益率	14.0%	8.8%	▲5.2P	
音響機器事業	売上収益	1,144	1,000	▲144	▲15
	事業利益	86	50	▲36	▲5
	事業利益率	7.5%	5.0%	▲2.5P	
部品・装置 その他の事業	売上収益	305	270	▲35	▲1
	事業利益	0	0	0	▲0
	事業利益率	0.1%	0.0%	▲0.1P	

主要経営数値

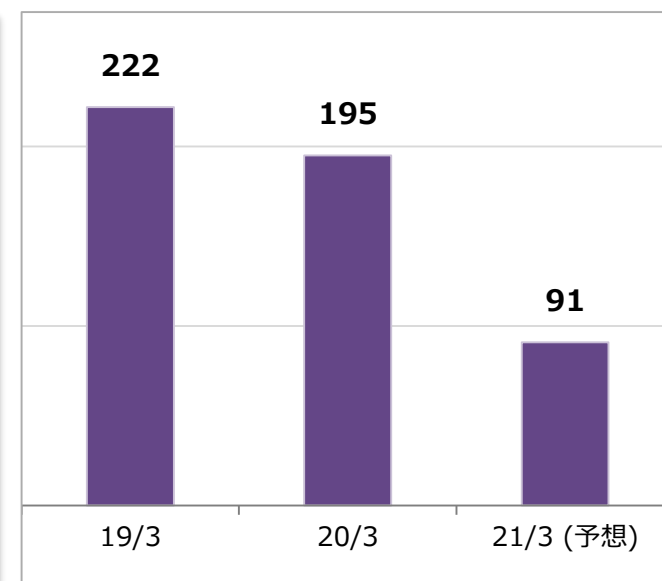
事業利益率

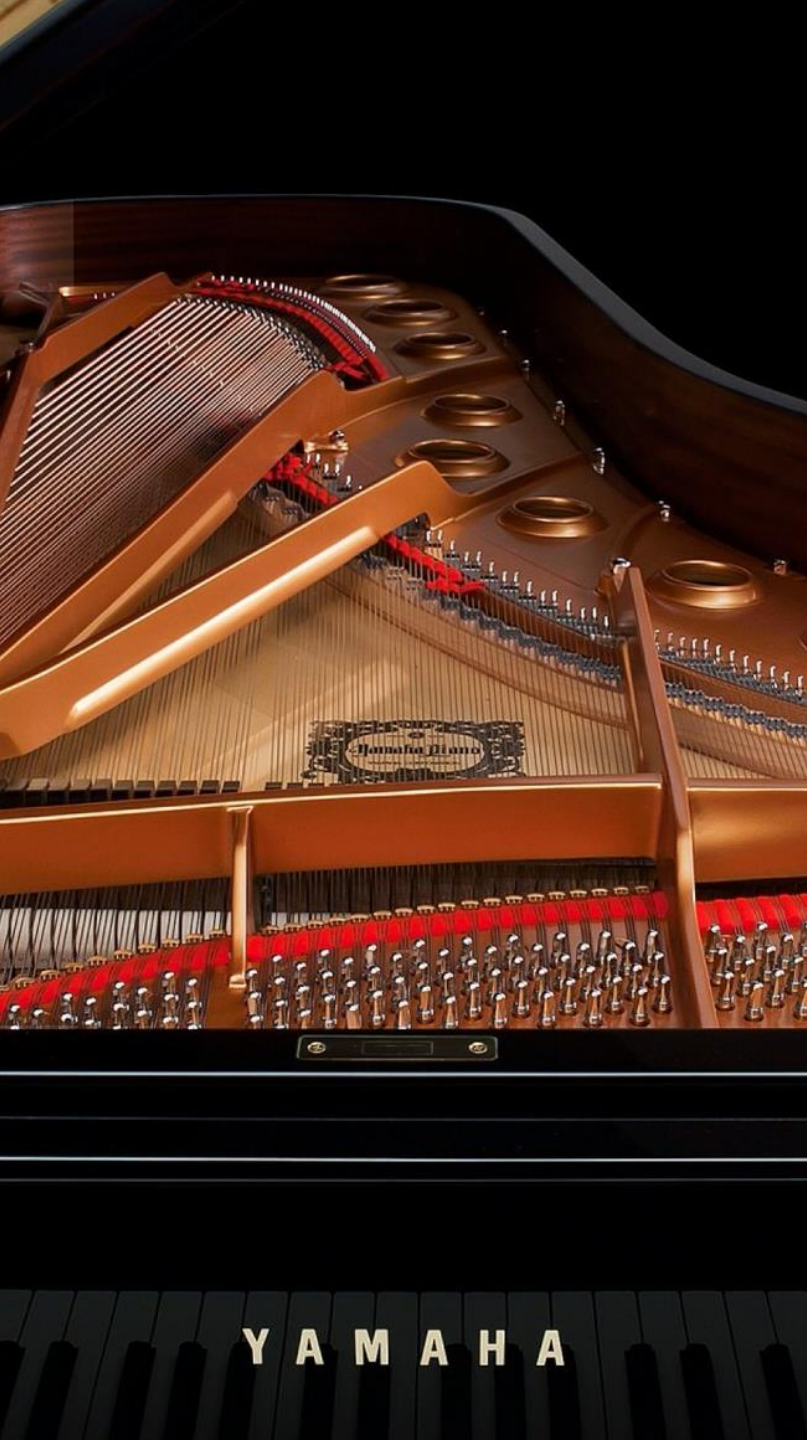


ROE



EPS (円)



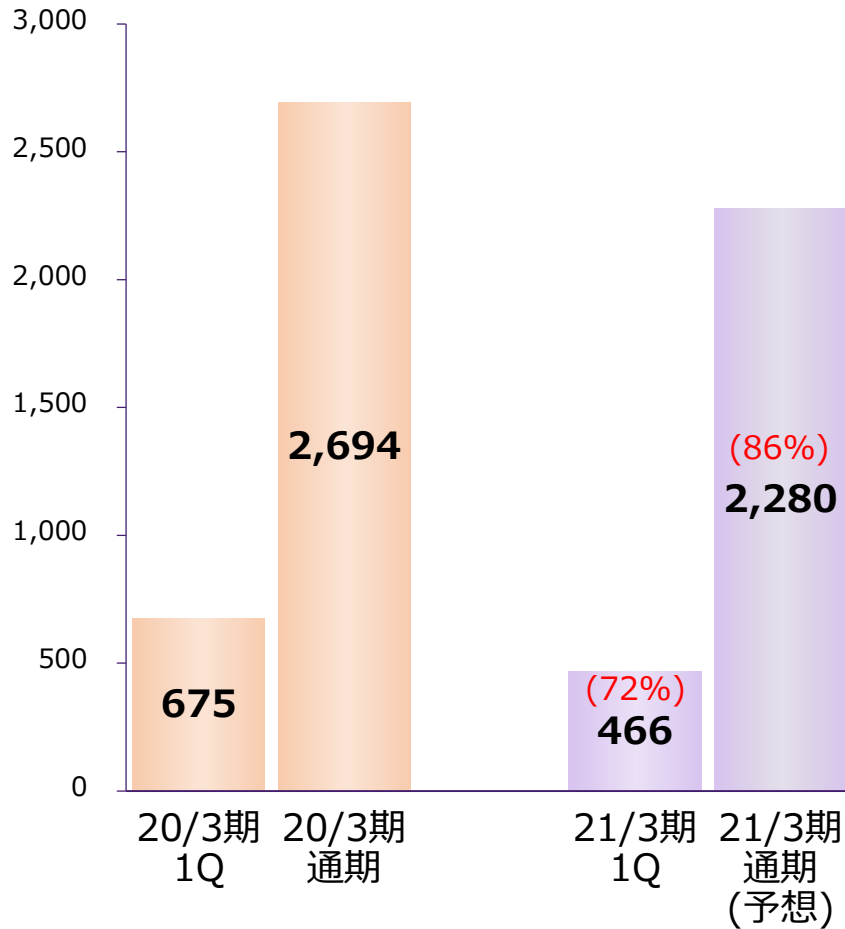


2. 事業別概要

売上収益・事業利益

売上収益

(億円)



[1Q状況] EC堅調も、店舗休業等コロナ影響大きく減収

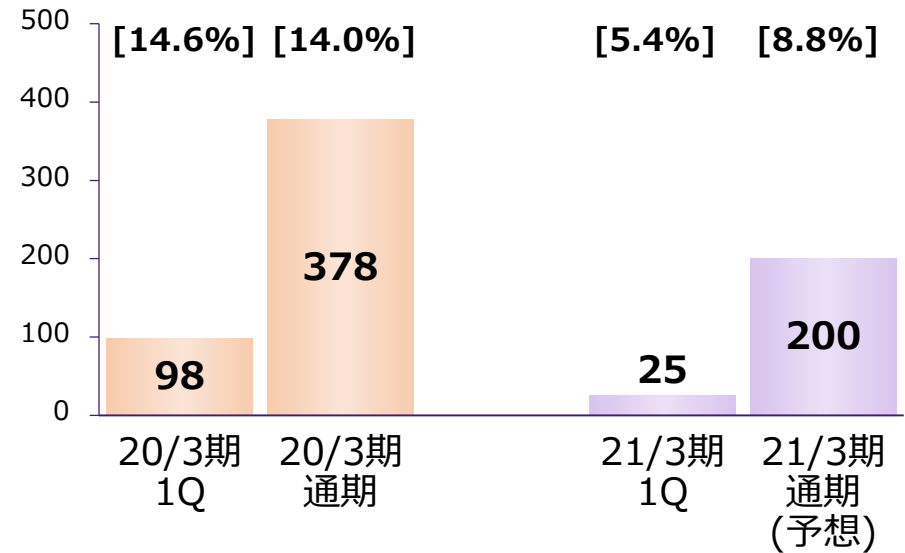
- ・ピアノは店舗休業の影響大きく低調、電子楽器は北米中心に堅調も供給不足により減収、管弦打は学校休校により需要低迷、ギターはステイホーム需要とECにより堅調
- ・教室等ソフト収入は休業影響大きく半減

[通期見込] 下半期に市況回復、供給不足解消を予想

- ・ピアノは下半期より市況回復、電子楽器は下半期に供給不足解消、管弦打は学校休校により市場が縮退、ギターは増収を予想
- ・中国は増収、それ以外の地域は減収を予想

事業利益

(億円)



()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

[]内は事業利益率

主要商品 販売状況

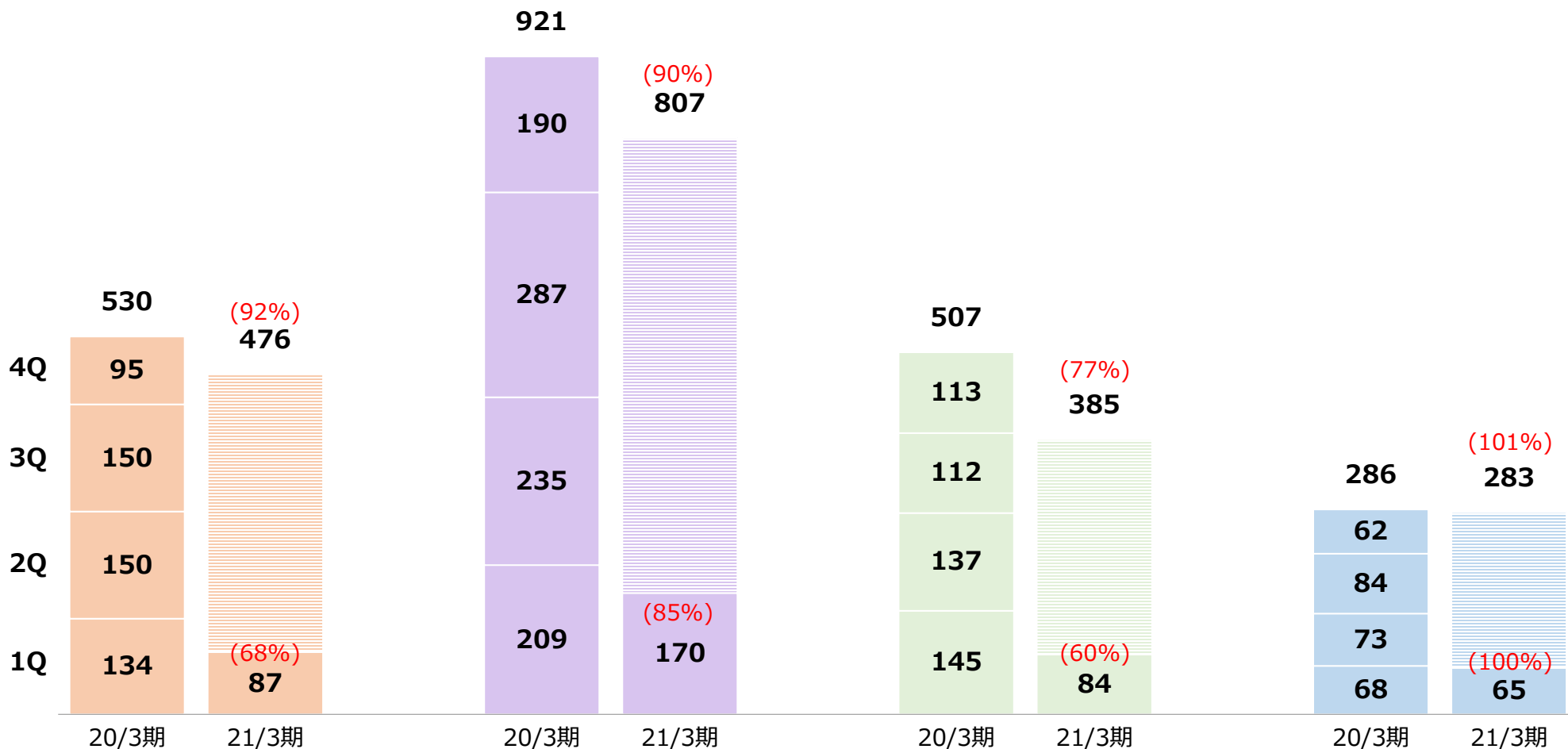
ピアノ

電子楽器

管弦打楽器

ギター

(億円)

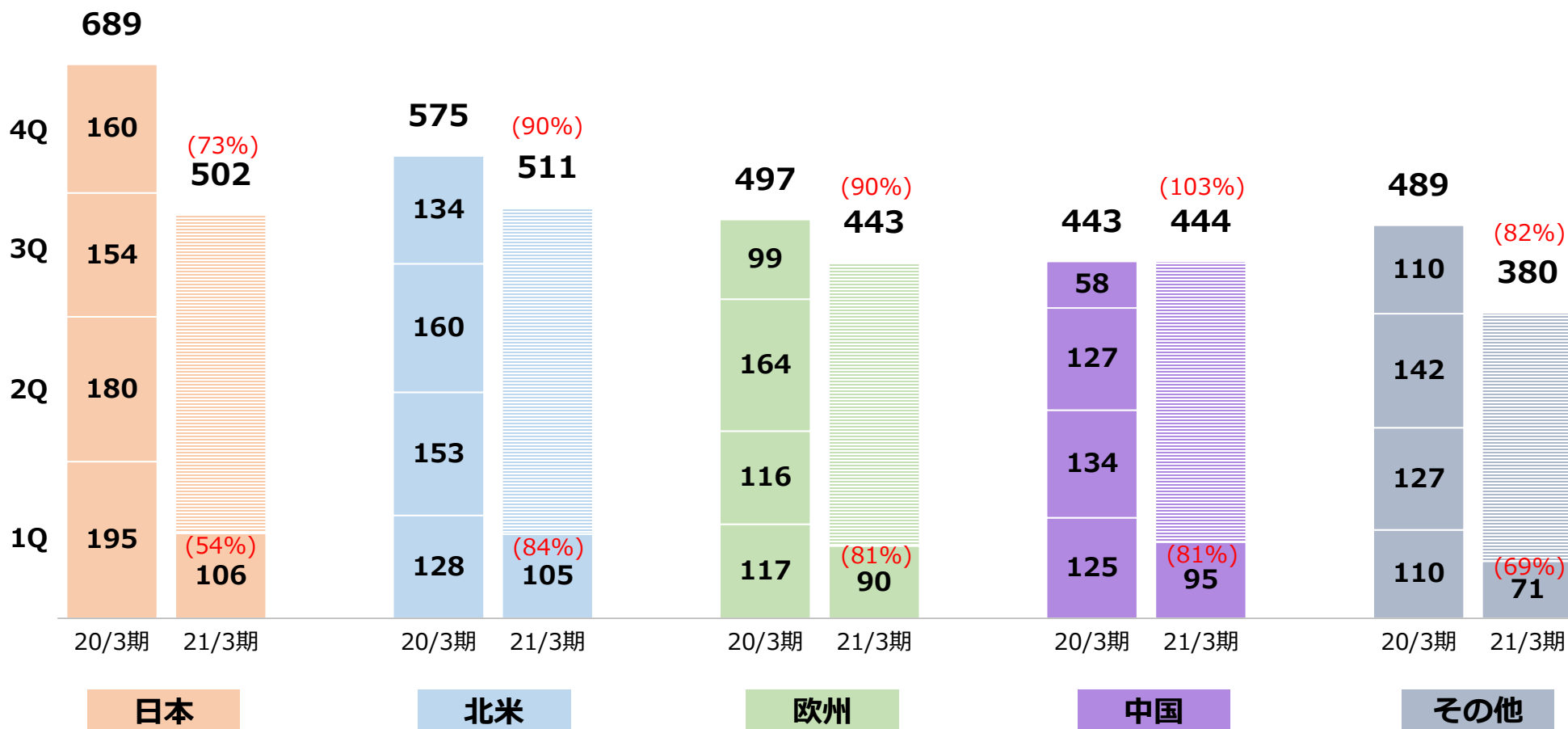


()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

*ギターは、Line6・Ampegブランド売上を含む

地域別販売状況

(億円)

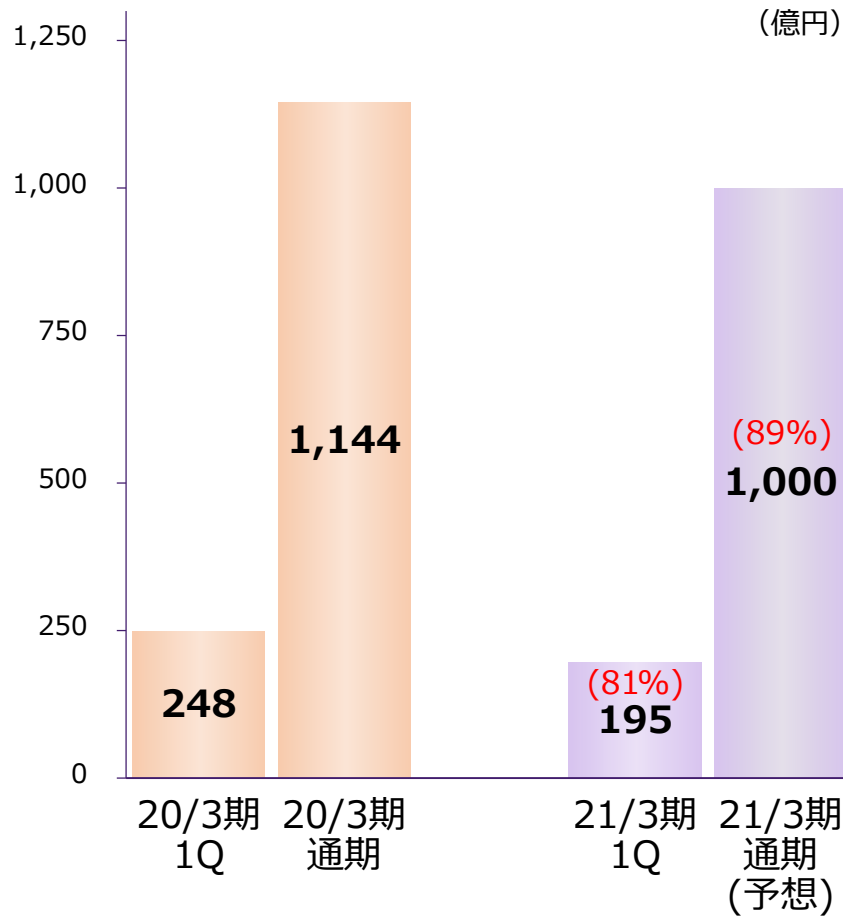


※ソフト、音楽教室等を含む

()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

売上収益・事業利益

売上収益



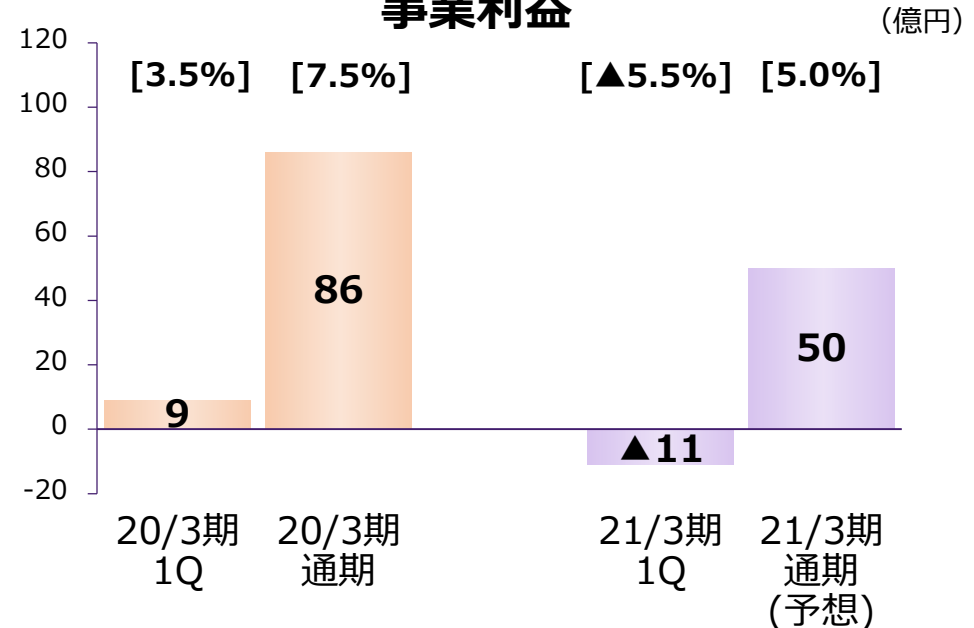
[1Q状況] AVはステイホーム需要増、PAは苦戦

- ・ AVはサウンドバー、イヤフォンが好調、レシーバー減収
- ・ PAはライブ市場、設備音響共に低迷、日本の設備工事は好調
- ・ ICTは会議システムが好調に推移

[通期見込] ステイホーム関連中心に需要増見込むもPA苦戦続く

- ・ AVはイヤフォンの高成長、レシーバーの供給不足継続を予想
- ・ PAは音楽制作好調も、ライブ市場の市況回復見込めず減収を予想
- ・ ICTは会議システム好調により2桁成長を予想

事業利益

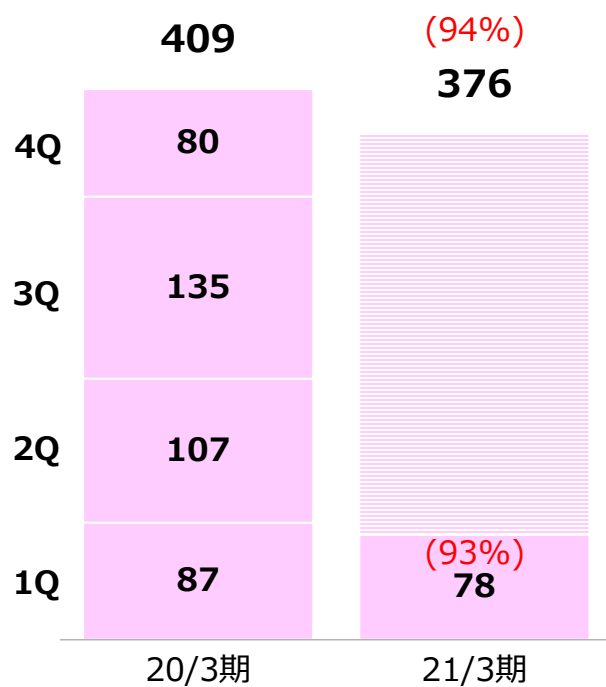


()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

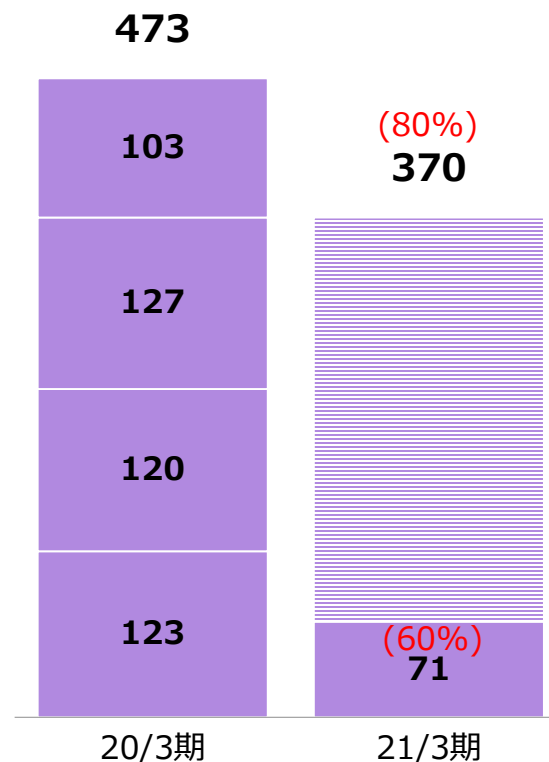
[]内は事業利益率

主要商品 販売状況

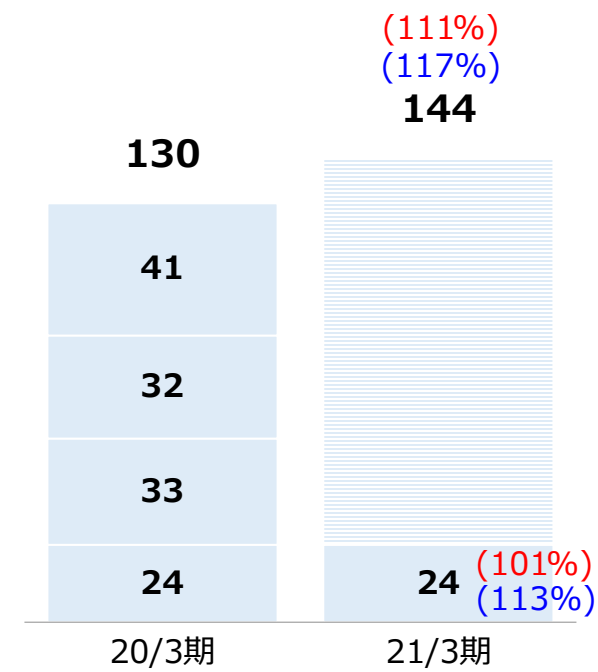
AV機器



PA機器



ICT機器



(億円)

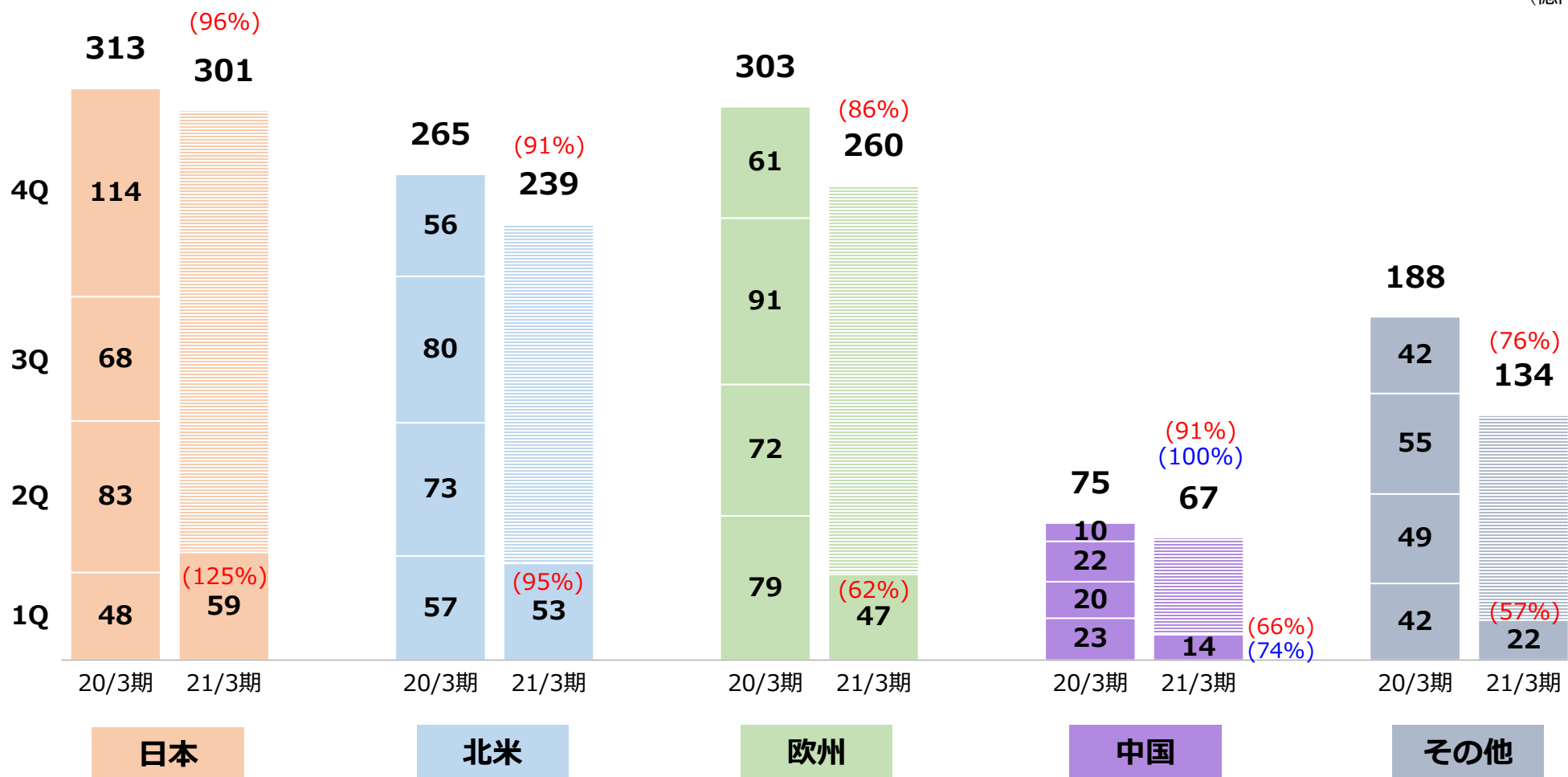
※PA機器はハード売上収入のみ（設備工事を除く）

()内はOEM向けを除いた前期比増減

()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

地域別販売状況

(億円)



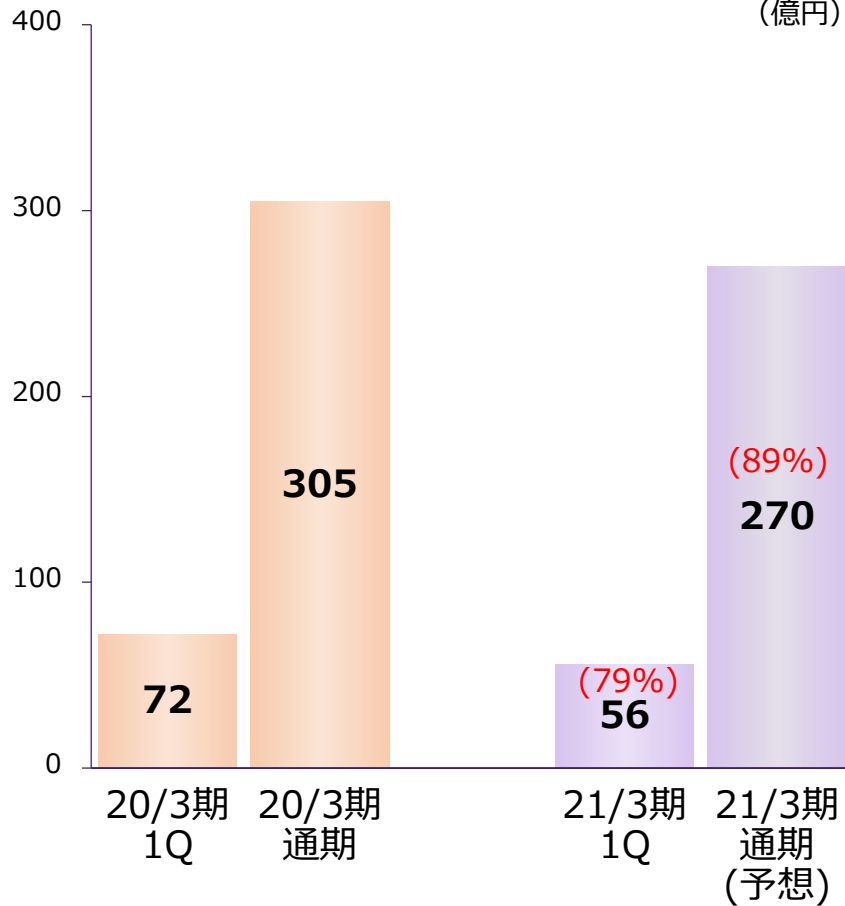
()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

()内はOEM向けを除いた前期比増減

売上収益・事業利益

売上収益

(億円)



()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

[1Q状況]

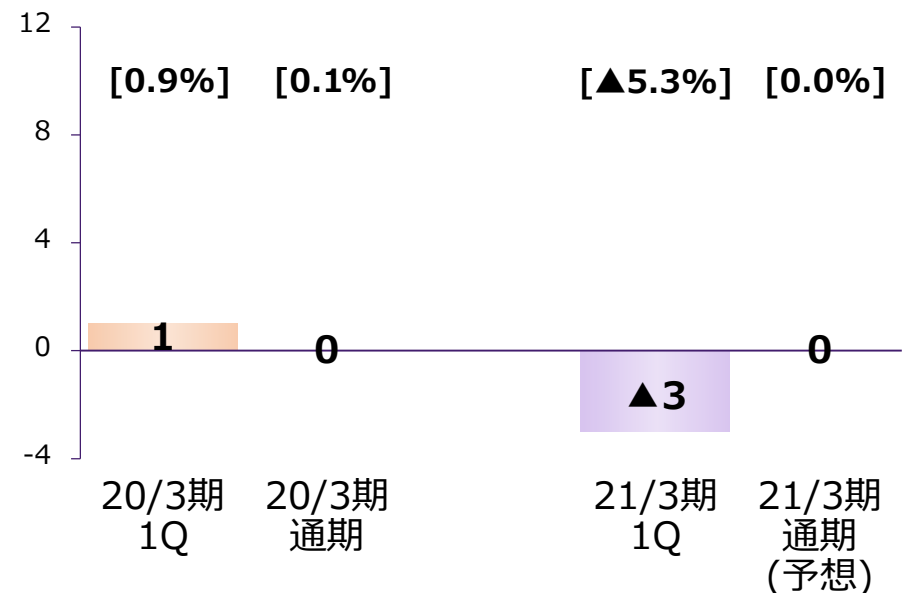
・自動車市況の影響により車載関連の電子デバイス、自動車用内装部品が苦戦

[通期見込]

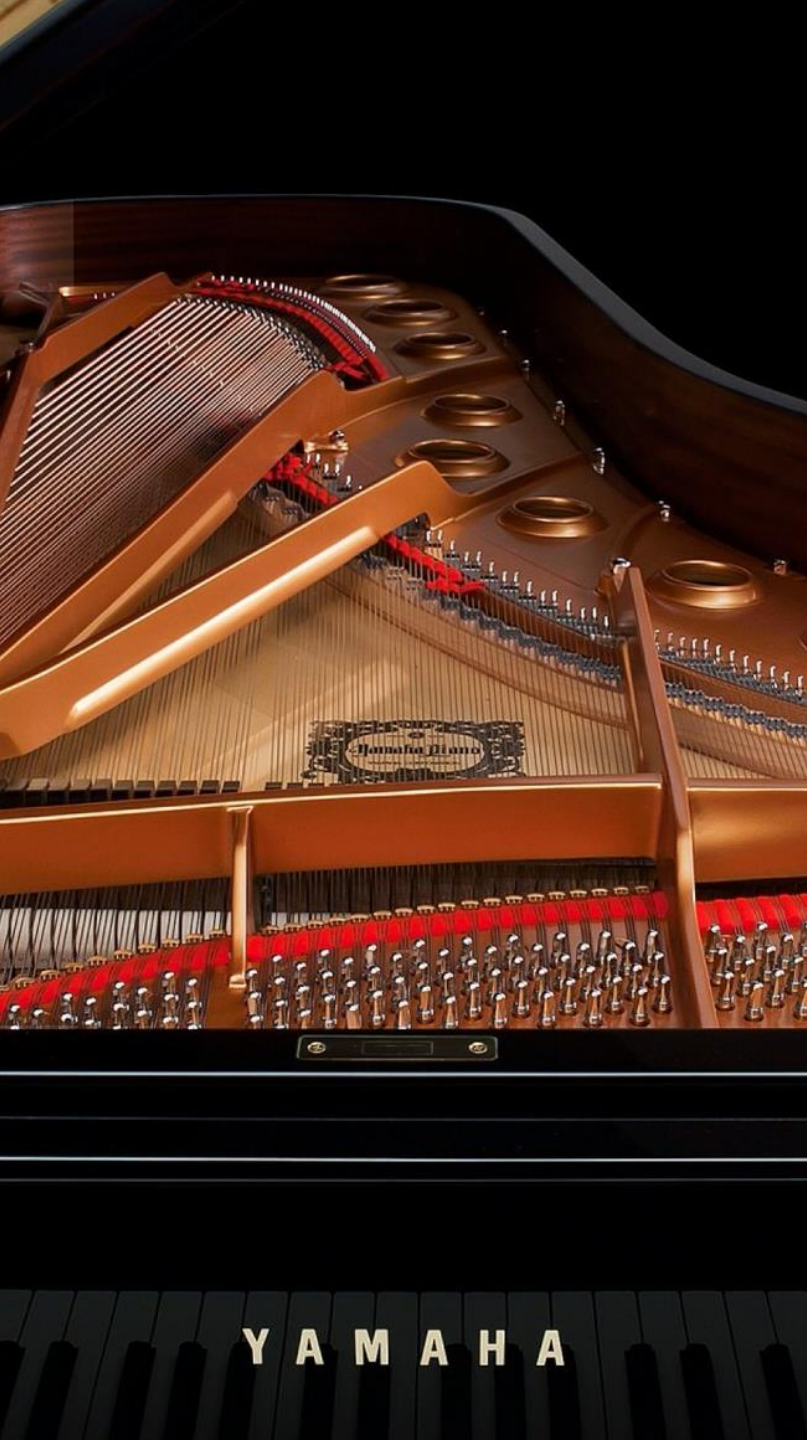
・電子デバイスは車載関連部品の不透明感、FA機器はコロナ影響に伴う設備投資の先行不透明感から市況回復の遅れを予想

事業利益

(億円)



[]内は事業利益率



3. その他財務数値

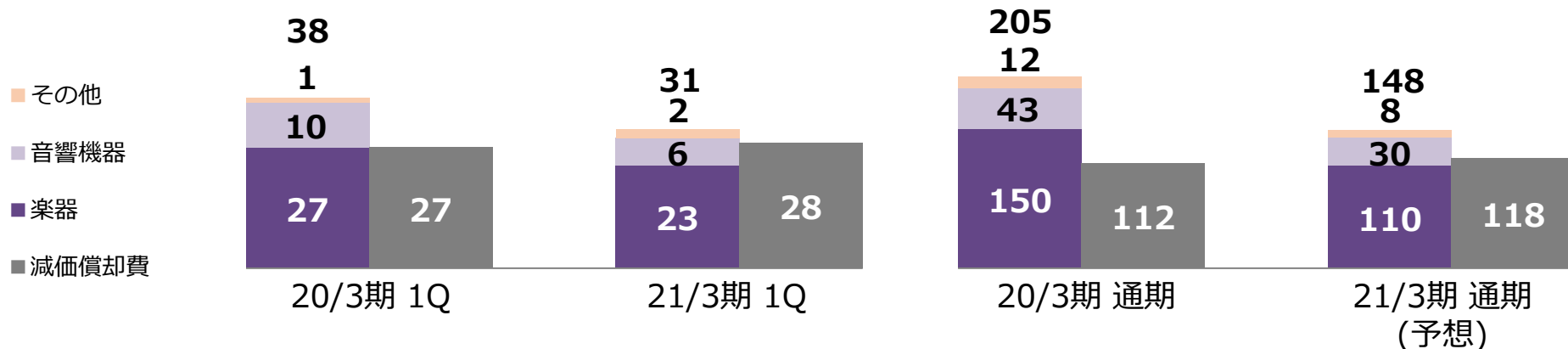
貸借対照表

	20/3末	21/3 1Q末	増減	21/3末 (予想)	(億円)
現金及び現金同等物	927	885	▲42	892	
営業債権他	581	474	▲107	590	
その他金融資産	129	74	▲56	74	
棚卸資産	1,001	1,008	8	950	
他流動資産	65	78	13	97	
非流動資産	2,038	2,151	112	2,143	
資産計	4,740	4,669	▲71	4,745	
流動負債	991	901	▲91	863	
非流動負債	484	457	▲27	451	
資本計	3,265	3,311	47	3,431	
負債及び資本計	4,740	4,669	▲71	4,745	

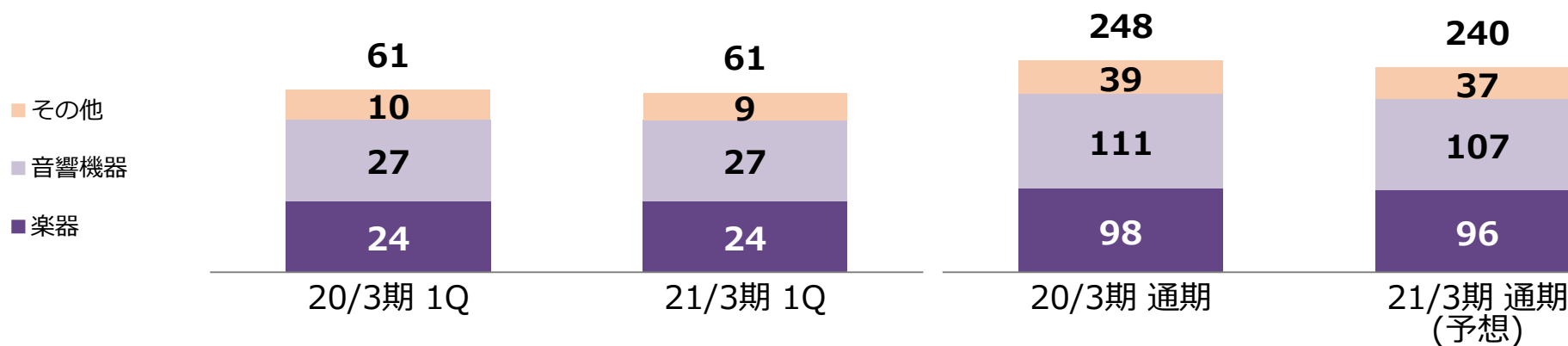
設備投資額・減価償却費/研究開発費

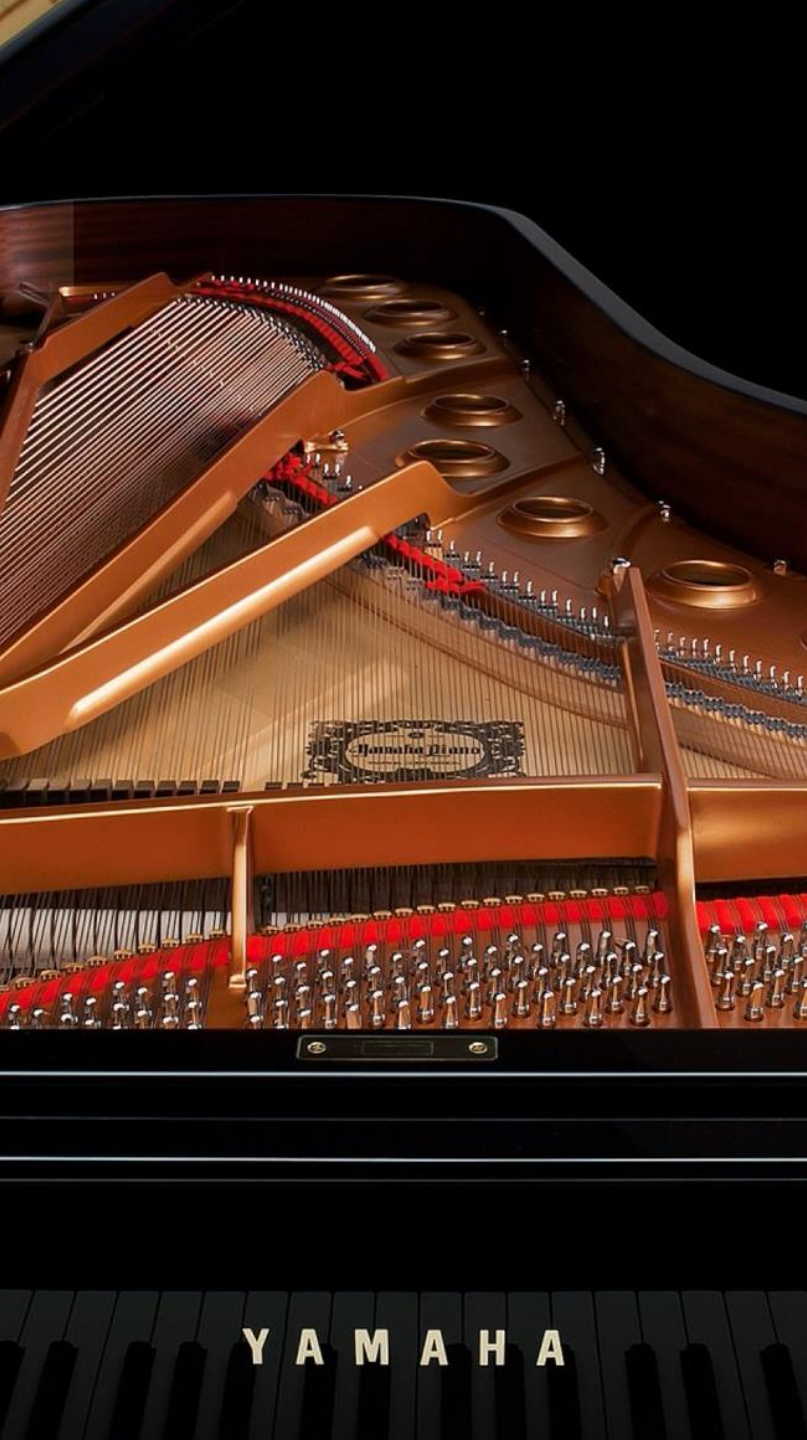
設備投資額/減価償却費

(億円)



研究開発費





付属資料

1Q その他収支等

		20/3	21/3
事業利益		108	11
その他収益・費用収支	固定資産処分損益	0	0
	その他	3	▲27
	計	3	▲26
営業利益		111	▲15
金融収支計	受取配当金	3	3
	その他	▲4	▲5
	計	▲1	▲2
税前利益		110	▲17
法人所得税費用		37	1
非支配株主利益		0	0
当期利益*		73	▲18

(億円)

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

通期 その他収支等

		20/3	21/3 (予想)
事業利益		464	250
その他収益・ 費用収支	固定資産処分損益	3	▲0
	その他	▲33	▲25
	計	▲30	▲25
営業利益		433	225
金融収支計	受取配当金	37	21
	その他	2	▲8
	計	39	13
税前利益		472	237
法人所得税費用		125	76
非支配株主利益		1	1
当期利益*		346	160

(億円)

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。